

東京の道路交通網は、放射方向の整備は進んでいるが、環状方向の整備の遅れから、都内の環八・環七などにおいて交通渋滞を引き起こしているのが現状である。高速道路をはじめとした幹線道路は、その整備によって道路の利用が便利になることや私たち都民の生活にとって必需品である生鮮食料品や衣料品などをより早く、確実に運ぶ手段としても大変重要なものとする。一方で、外環が大深度地下方式となることにより、地上部への影響が高架方式と比べて少なくなったと考えられるが、その整備による排気ガスや騒音など周辺環境への影響や立ち退かなければいけない人々があるなど地域に影響を及ぼすことは事実である。

こういった点から外環が必要なのかそうでないのか 3 年間議論を続けてきた。その中で、国土交通省及び東京都から、外環に関する様々なデータを提出いただき、改めて外環は必要ではないのかと感じたところである。しかし、周辺環境への影響がどうなるのか、特に、中央道ジャンクション周辺で中央道と外環、仙川に囲まれた調布市緑ヶ丘 1 丁目の一部地域（三日月地帯）をどうするのか、またジャンクション周辺での大気汚染や騒音・振動など環境への影響はどの程度なのか、インターチェンジ付近の交通混雑はどうなるのか、アクセス道路はどうするのかなどについては、未だデータも出ず、その対応の議論すらされていない状況である。加えて、昭和 41 年の都市計画決定以来、整備計画が中断したままでは、都市計画線内の住民や地権者は建築制限を受けたままの状況が続き、生活設計も成り立たない。

今回、PI 外環沿線会議終了後、「外環の必要性」を踏まえて、次の計画段階では地域住民や地権者を含めた地域毎での議論を深めることが重要である。その際、インターチェンジへのアクセス道路の整備、環境や交通混雑などジャンクションやインターチェンジの周辺住民の生活への影響を考慮し、その影響を軽減する対策を講じていただきたい。特に調布市緑ヶ丘 1 丁目の三日月地帯について、国土交通省と東京都は特段の対応をお願いしたい。

今後も、外環の整備にあたっては、都民や地域住民などの意見を十分踏まえて、進めていただきたい。

調布市在住委員 遠藤好照

調布市在住委員 川原徳重